

## 分科会 「復興をめぐることばの特性、変容、課題 ～復興ワードマップ研究会の報告（2）～」

（1日目：11月9日（土） 9時30分～11時50分）

企画：近藤誠司  
（関西大学社会安全学部）  
Seiji KONDO

### 1. 趣 旨

災害が各地で頻発し、復興に関する議論や取り組みが活況を呈してくるうちに、災害復興をめぐることばの生成変転に拍車がかかり、ときに思わぬ誤解や意図せざる混乱を招く事態が生じている。「創造的復興」、「事前復興」、「復興情報」、「災害弱者・要援護者・要配慮者」、「避難／避難所」、「自助・共助・公助」、「コミュニティ」、「レジリエンス」、「防災・減災」、「教訓」、「伝承と伝達」、「目標と計画」、「コミュニティ・ビジネスとシビック・エコノミー」…。意味論・統語論の観点からみても、そして語用論的な観点からしても、これらのことば群には、大きなゆらぎを見出すことができる。

災害復興学を深化させていくためには、ここであらためて、ことばの射程や系譜を精査・探究しておく必要があるのではないか。また、復興をめぐることばと復興の名のもとにおこなわれている多様な営みのインタラクションを分析することは、われわれが志向している「復興」とは一体何なのかを考究することに連結できるのではないか。このようなことを主眼として、2017年度半ば、数名の有志によって「復興ワードマップ研究会」が旗揚げされた。今回は、同メンバーによる続報という位置づけである。昨年度に引き続き、会場からも、率直な“ことば”に対する疑問符を集め、共有したいと考えている。

なお、当研究会のこれまでの議論に関しては、日本災害復興学会のウェブサイトを参照のこと。

<http://f-gakkai.net/modules/tinyd2/> （復興ワードマップ研究会）

### ○キーワード

ことば、ワードマップ、媒介、意味論・統語論・語用論、プラスチックワード

### 2. 登壇者

コーディネーター

- ・近藤誠司（関西大学社会安全学部）

パネリスト

- ・宮本 匠（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科）
- ・石原凌河（龍谷大学政策学部）
- ・李 勇昕（京都大学防災研究所）
- ・立部知保里（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科）
- ・大門大朗（京都大学防災研究所）
- ・宮前良平（大阪大学大学院人間科学研究科）